

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っている。特に「書くこと」について、自分の考えをまとめ、記述することは全国平均を大きく下回っており、無回答率も高くなっている。
	よくできた問題	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っている。特に「選択式」「記述式」について、言葉や数を用いて、求め方や答え方を記述することは全国平均を大きく下回っており、無回答率も高くなっている。
	よくできた問題	一の位が0の二つの二位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析	
<p>○「自分には、よいところがあると思うか」「友達関係に満足していますか」について、肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を上回っており、自尊感情の高まりがみられます。また、「人の役に立つ人間になりたい」「いじめは、どんな理由があってもいけない」といった道徳的な倫理観が育ってきています。</p> <p>○地域行事への積極的参加は少ないものの、「日本や住んでいる地域のことを、外国の人にもっと知ってほしい」「地域や社会をよくするために何かしたい」について、肯定的な回答をした児童は全国平均を上回り、郷土愛が高いことがわかります。</p> <p>○毎日の起きる時刻や寝る時刻、毎日の朝食摂取、SNS等の利用時間やルールを守ることなど、生活習慣の安定と充実に関しては、今後も児童への指導と家庭への啓発をし、連携していく必要があります。</p> <p>○「PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」について、肯定的な回答している児童の割合は、100%でしたが、活用頻度については全国平均を若干下回っており、今後の課題です。</p> <p>○「授業時間以外の1日の勉強時間」については、30分より少ない・全くしないと回答した児童が、全国平均を若干上回っており、家庭学習のあり方について改善や啓発の必要があります。</p>	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○各教科の基礎的・基本的な内容の更なる定着を図るために、ICT機器を効果的に活用した授業改善や補充学習の取組を進めます。特にGIGA端末を学習の中でもっと活用します。児童が調べ学習を行う際はもちろん、友達と意見を交換したり、自分の意見をまとめ発表したりする場面でも活用していきます。</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになってきました。今後さらに、児童が自身の考えを表出できるように授業改善を図っていきます。また、自分の思いや考えを臆さず書けるようにするために、日常的に文章を書く活動を学習活動に盛り込みます。</p> <p>○様々な教科や総合的な学習の時間の中で、意図的計画的な追求活動を仕組むとともに、高蔵校区ならではの「ひと・もの・こと」や特性を学ぶ機会や活動を充実していきます。</p>
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○スマートフォンの使い方等に関しては、学級で折に触れて指導するとともに、学校・学年通信等を通して、保護者へさらなる啓発を図ります。また、ゲストティーチャーを招聘するなどして、より切実感のある指導ができるようにしていきます。</p> <p>○家庭学習の在り方について職員でもう一度協議し、時間や内容、負担感等を考慮して家庭に投げかけます。また、自主学習ノート等を活用し、自分で計画を立てさせたり、学習課題を提示したりして、基礎的、基本的な学力の定着を図っています。</p> <p>○食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣や読書習慣が身に付くようにします。</p> <p>○みんなで守る「タッカー三つの花大作戦」の取組をさらに充実させ、学期に一度振り返る場（カード）を続けることで、基本的な生活習慣の安定を図り、今後も互いが気持ちよく生活できるようにします。</p> <p>○学習習慣の形成に向けて「まなQチャンネル」や「家庭学習チャレンジハンドブック」等、家庭学習に適した資料を保護者に紹介し、積極的な活用を促します。また、学校通信・学年通信や学校ホームページで、保護者アンケートの結果等を公表し、本校の成果や課題を保護者に周知し、協力を得るようにします。</p>
